第１部 「古典舞踊とアーカイブス」 講演

「薄井憲二バレエ・コレクションとアーカイブス」

芳　賀　直　子（舞踊研究家）

貫　それではまず初めに第１部，「古典舞踊とアーカイブス」と題しまして，お２人の方にご講演をいただきたいと思います。

初めに，芳賀直子先生から「薄井憲二バレエ・コレクションとアーカイブス」というタイトルでお話をいただきます。芳賀先生は明治大学文学部の演劇専攻博士課程前期をご修了なさったあと，現在ではバレエ・リュス，それからバレエ・スエドワを中心とした舞踊研究家として活動しておられます。あわせて兵庫県立芸術劇場の薄井憲二バレエ・コレクションのキュレーターを務めておいででいらっしゃいます。つい最近，国書刊行会より『バレエ・リュスその魅力のすべて』という大著をご発表になりました。2007年には講談社から『Ｉｃｏｎ　伝説のバレエ・ダンサー，ニジンスキー妖像』という写真の多い著書もご発表されておられます。

それでは芳賀先生，よろしくお願いいたします。(拍手)。

芳賀　ご紹介にあずかりました芳賀直子でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。このようなアーカイブスについての舞踊学会第１回目のフォーラムのトップバッターというのは，いささか緊張するものでございますけれども，このような素敵な機会をいただきましたので，私がキュレーションを務めております兵庫県立芸術文化センター薄井憲二バレエ・コレクションについて少しご説明をしたいと思います。

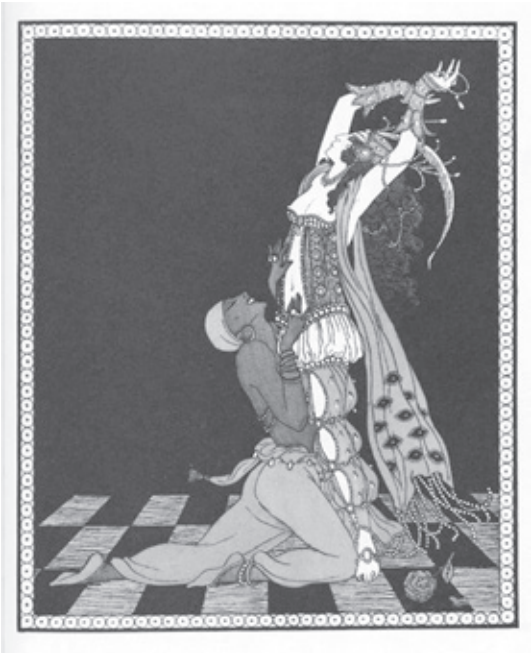
このコレクションは，名前に「薄井憲二」とついておりますように，現在日本バレエ協会会長であられる薄井憲二さんが1930年代からご自身で集められた個人コレクションです。個人コレクションということから，非常にインティメットなものが多いのです。薄井さんの言葉を借りれば，「私がロマンティックなもの，センチメンタルなものが好きだから」ということになるのですが，たとえばサイン入りのお手紙，あるいは写真といった非常にプライベートなものが多いというのも当コレクションの大きな特徴かと思います。また,「バレエの中でもとりわけバレエ・リュスまでに関心が強い。」とおっしゃっていることからもわかりますように，そこまでの時代が特に充実しております。

大体総点数が6500というのが，公式には発表している数字ではあるのですが，実はこれは５年前にコレクションが収蔵された際の数字でございまして，今回発表するに当たって現在の所蔵数を数えましたところ，だいぶ増えているというのが実状でございます。いずれにしましても国内では恐らく最大の規模を誇るコレクションであるということをご理解いただければと思います。

コレクションの内容につきましては私がお話しするよりも画像を見ていただいたほうがよろしいかと思います。画像をお願いいたします。

＜　画像　＞

ただいまの画像でご紹介しておりますように，ロマンティック・バレエ，ロシア帝室バレエ，そしてバレエ・リュスと，アフター・バレエ・リュス～これはバレエ・リュス以降の多くのバレエ・リュスのことですが～がコレクションの４つの柱となっております。



＜　画像　＞

＜　画像　＞

これらは非常に有名なジョルジュ・バルビエの版画になります。

＜　画像　＞

＜　画像　『ジゼル』を踊るカルロッタ・グリジ，1840年代　＞

こちらは『ジゼル』の初演でも知られるカルロッタ・グリジの版画です。その大変なライバルでもあったのが，こちらのファニー・エルスラーになります。このようにロマンティック・バレエ時代のダンサー達の版画も多数所蔵しております。

＜　画像　＞

＜　画像　『瀕死の白鳥』を踊るアンナ・パヴロヴァ，自筆サイン入り絵葉書　＞

＜　画像　＞

今ご覧いただいたアンナ・パヴロヴァに関しましては，来日の時のプログラムなども所蔵しておりますが，どちらかというと海外が中心で，日本のものは多少少ないというのがコレクションの特徴でもあります。

＜　画像　バレエ・リュス　公式プログラム，1910年（バレエ・リュス初の公式プログラム，表紙：レオン・バクスト）　＞

＜　画像　＞

今ご紹介したのがバレエ・リュスの公式プログラムでして，これにつきましてはほぼ全部のコレクションがございます。20年間の活動の全てということでございます。

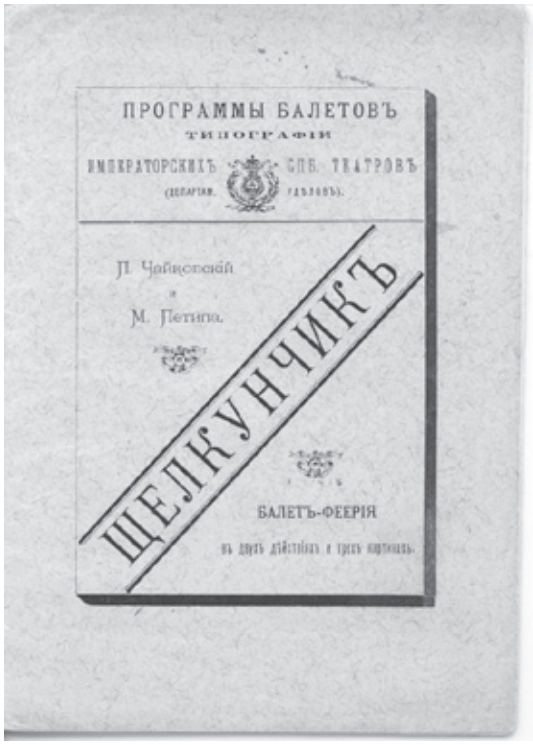
＜　画像　＞

また，ダリのものを今ご覧いただきましたが，バレエ・リュスの衣鉢を継いだバレエ・リュス・ド・モンテカルロの公式プログラムもございます。バレエ・リュス・ド・モテンカルロにつきましては，ようやく再評価が始まったという状況でございますが，こちらに関してましても，これからの研究者のために役立つような資料を多数所蔵しております。

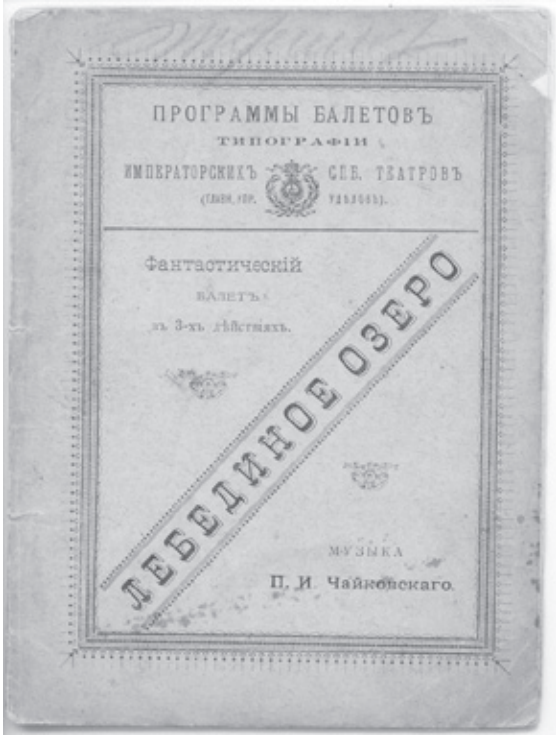
＜　画像　＞

これはバレエ台本になります。バレエ台本もかなりの点数を所蔵しております。こちらでご紹介しているのは『くるみ割人形』の初演台本と,『白鳥の湖』のプティパ＝イワノフ版のほうの初演台本になります。

また台本に関しましては，ブルノンヴィルは全部で40点近いバレエ台本を所蔵しております。言葉の問題がありますので，わかる方でないと来てごらんいただいても，わからないということがあるので，ちょっとその辺はハードルが高いのかなというふうにも思いますが・・。



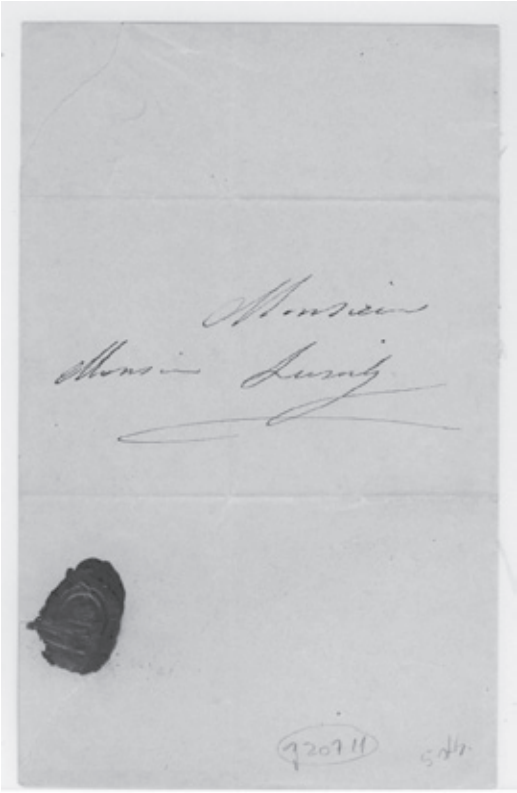
＜　画像　『くるみ割り人形』初演台本，1892年　＞



＜　画像　『白鳥の湖』プティパ・イワノフ版初演台本，1895年＞

＜　画像　＞

これが先ほど申し上げた,「すごくロマンティックでセンチメンタルなもの」と，薄井さんが言われたものになるかと思います。



＜ 画像　マリー・タリオーニの直筆手紙 ＞

こちらは『ラ・シルフィード』などでも大変有名なマリー・タリオーニの手紙ですが，当時は手渡しでしたから，蝋による封印が残っておりまして，その時代のダンサーの生活なども想像できるような逸品でございます。

＜　画像　＞

今ご覧いただきましたのは，バレエ・リュスのハウス・プログラムとなります。バレエのプログラムにつきましては，私共では２種類に分けて整理をしております。公式プログラム，あるいはスーヴェニール・プログラムと言われることもございますが，先ほどお見せしたような，かなり豪華なつくりのものと，当日配られた今ご覧いただいたような簡単な文字情報のみのものです。後者の中には，1929年バレエ・リュス最後の年の１月の初めての公演の日の寄せ書きがあるという，非常に面白いものもございます。

＜　画像　＞

お尋ねが多い衣裳につきましては，我々のところでは２点所蔵しております。現在こちらの『青い鳥』の衣裳は，ご覧のように非常に状態が悪くなっておりましたので，衣裳専門の方に修復をお願いしておりまして，今年の11月，年内には修復が上がってくる予定でございます。修復された暁には展覧会をというお話もありますが，残念ながら現状，まだ詳細は未定となっております。

＜　画像　＞

これはアレクサンドル・サカロフの衣裳になります。

＜　画像　＞

また立体物といたしましては，このようなものも所蔵しております。アンナ・パヴロヴァが自分でつくったと言われている陶器でございまして，世界に10点弱ぐらいしかないと言われております。

＜　画像　＞

先ほど版画でもご覧いただきましたが，こちらはロマンティック・バレエの時代に大変な人気を誇りましたファニー・エルスラーの陶器です。

＜　画像　＞

そのほかには，以下のような書籍類が約2000点，雑誌が1000冊以上，ポスターが40点ほど，またオークション・カタログ――オークション・カタログというのは，この時だけカラー撮影されて，そのあと所蔵がわからなくなってしまったものもあるものですから非常に重要な資料になります。あるいは音楽の譜面，そして先ほどお話がありましたノーテーションを含めて70点強ぐらいのものを所蔵しているということになります。

はい，ありがとうございます。映像は以上になります。

薄井憲二バレエ・コレクションというのはご覧いただきましたような内容でして，最初にコレクションを兵庫に所蔵する時に，「薄井憲二バレエ・コレクション」という名前にするか，アーカイブにするかということで，実はちょっと議論がございました。ただ，その時点では，兵庫県立芸術文化センターという大きなところに入るに当たって，ではアーカイブスが何なのかと言われた時に，まだきちんと定義を皆様と共有することができないということもございまして，わかりやすく「バレエ・コレクション」ということになりました。私どものコレクションでは，ダンスに関してもイサドラ・ダンカンはじめ所蔵はございますが，ボリュームは若干少なめでして，バレエのものが中心となっております。先ほどから申し上げておりますように，薄井憲二さんという個人が集められたコレクションならではの面白さがある一方で，全部を網羅的に，たとえばどこか博物館や研究所が最初から予定を立てて集めたというものではないので，時々,「ああ，これがあったらいいのに」「あ

れがあればいいな」というようなこともあります。

それらを現在どのように保管しているかと申しますと，ご覧いただきましたように，衣裳ですとか書籍，あとロマンティック・バレエ時代の版画，あるいは写真といった，本来であればそれぞれの適温適湿で管理しなければならないものが多数あるのです。ですから，いろいろなところにリサーチに行きまして，写真美術館をはじめ多数の美術館さんにご協力をいただいて情報をいただいて，その中で，中間地点をとると申しましょうか，どの作品にも影響がなく比較的安全に保管ができるという温度湿度一定の収蔵庫に保管しております。ただ，必ずしもそれが，たとえば写真にはいいけれども革装丁の本にはあまりよくない湿度というのもありまして，そのためにメンテナンスに頻繁に訪れて，それぞれの状態をチェックし，場所をちょっと移動するとか，手作業で少しでも状態を保てるようにしているというのが現状でございます。

公開についてですが，現状では，年６回常設展を開催しておりまして，常設展のたびにリーフレットも作成しています。今回本当はこれを全員にお配りしたかったのですが，残念ながら，ちょっといろいろな事情でお持ちできなかったので，ご希望の方は，大変お手数ですけれども，兵庫県立芸術文化センターさんにご連絡をいただければと思います。

コレクション全体につきましては，このような４つ折りのものを作成しておりまして，常設展は１枚で表裏というもので出しております。これがなぜこういうことになったかというと，目録がまだ作成できていないものですから，目録をつくるまでの間ということもございますし，あとは劇場という非常に開かれた場所での展示をしておりますので，そこに来た方が少しでも，もっと知りたいと思った時に，お役にたてればということなのです。

その常設展につきましても，劇場ですから一般のお客様が多いということがありますので，なるべく普通の方にも親しみやすいテーマということを心掛けております。ですが，そればかりやっていると本当にバレエが好きな方にはちょっとつまらなくなるので，時々非常にマニアックなものをはさみつつ，いろいろなテーマで展示しているというのが現状です。たとえばバレンタインの時期に，マルキーズ・ド・セヴィーニェというチョコレート屋さん――パリにいまもあって日本にも時々入っていますが――バレエ・リュスのプログラムの裏表紙に素敵な広告を出しているので，その広告だけを特集してみたりとか，バレエのプログラム，バレエのコレクションと聞いてバレエだけにしか使えないと思われないように，こんなこともできるのよ，というようなご提案をしております。ですから，たとえば展覧会ということで申しましても，もちろんバレエに関わる部分で出品することが多いのですけれども，生活的な部分，つまりバレエを見に行った人たち，あるいはバレエをやっていた人たちの生活をしのぶというような展覧会，あるいは企画ということにもご協力をさせていただいております。バレエのある生活といったようなものも含めて，皆さんに知っていただければなというふうに思っております。

そのほかに，我々の単独の企画といたしましては，残念ながらそれほど数は多くないのですが，ご覧いただいた方もいらっしゃるかと思いますが，昨年は埼玉芸術劇場ホワイエで，また12月には，「バレエ・リュス展」と称して，ミキモトさんご出資の下にミキモトホールでの展示をさせていただきました。本当はもう少し大きな展覧会ができればいいのですが，なかなかいまのところ実現しないというのが現状でございます。

私どものコレクションというのは，印刷物もありますし，マルティプルなものだから，本来だったらもうちょっと管理を甘くして，いろいろな劇場とかにもお出しできればいいのですが，なかなかその辺がせめぎ合いでございます。皆さんに見ていただきたいと思う一方で，私よりも人生というか，長い生き物であるコレクションをどのように保存して，さらに見ていただくかというところは，いつも悩むところです。ですので，まだこれは改善の余地はあるかなと思っております。また，せっかく劇場ということでございますので，劇場の中ならではの関わりでも活動を行うことができればいいなと思っておりますけれども，まだ現状いろいろ課題が残るところでございます。

閲覧に関してですけれども，基本的には現在困るのですが，とにかくコレクションを知りたい，全部見せてくれというようなオーダーが割合多いのですね。ですが，私が兵庫に常時いるわけではございませんので対応が大変難しいのです。現状，テーマがはっきりしている，あるいは論文でこれを書きたいとか，これを調べたいという非常にピンポイントなお問い合わせに関してをメインでお答えしているという状態です。ただ，所蔵に関してのお問い合わせ等に関しては，なるべく積極的にわかる範囲でお答えしておりますので，それをぜひ皆様ご活用いただければと思います。

お問い合わせいただいてからタイムラグが多少生じてしまうということは皆さんご理解いただければと思っております。ただ，せっかくのコレクションですので，皆様に見ていただいて，知っていただいて，それを使った研究者というものが出てくれば，コレクションとしてこれほど嬉しいことはないと思っております。

今後の展開でございますけれども，現在，先ほど申し上げたような目録を作成をと思っております。ただ，これはかなり時間がかかるかなというのが現状でございます。話が前後してしまいましたけれども，コレクションの分類についてでございますが，これは図書館学で言いますと１つの「芸術」という分野に全部入ってしまうのですね。これを，ではどうしたものかと思いまして，アーカイヴスの方，あるいは各地の美術館学芸員さんにお話しを伺ったり，いろいろなところで調査をいたしました。ところが，結局世界中見ても，たとえばプログラムだったらこういうふうに整理をしましょうとか，そういった統一見解が現状ないのですね。そこで私どもがやっておりますのは，たとえばプログラムだったら「ＰＲ」というのを頭につけておいて，バレエ・リュスとバレエ・リュス・ド・モンテカルロは大変多ございますので，そこに「バレエ・リュス」をつける。そして，それがオフィシャルなのか，先ほど言った当日プログラム，ハウスプログラムなのかを分け，そしてそのあとに通し番号ということで現状やっております。本当にそれは紆余曲折があって，年号を入れてみたり，いろいろなことをやってみたのですが，年号を入れるとワンシーズンのプログラムとその年だけのプログラムということで，結局同じ番号が生じてしまったりということがありまして，このようにいたしました。また，ポストカードと写真というのを「ＰＣ」「ＰＨ」で分けるのですが，見かけは絵葉書なのだけれども，写真かもしれないというものもあります。ポストカードと書いておいてくれればいいのですが，当時必ずしも表記があるわけではないのです。最終的には写真の雰囲気や，サイズでこのシリーズがあるからこっちだろうとか，その時々の判断となる部分もあります。ですからその辺の統一をもう少しどうにかしなければというところが現状あります。ですから，整理をしながら，「やはりこれはポストカードに入れなければ」と，あとから番号を統合したりという作業を現在もしておりまして，なかなか簡単ではありません。

また，今回ここではご紹介しておりませんけれども，メダルですとか，あるいはファニー・エルスラーの踊っている姿を写したガラスの瓶，それはお酒の瓶か何かのようなのですが，そういうファンがいたから成り立った商品のようなものもコレクションにありまして，そういうものは非常にイレギュラーなのですが，メダルの「ＭＥ」をとって，あとは通し番号というような，分類につきましても説明をたくさん要するコレクションという感じになっております。

それから，昨今声が高くなっているデジタルアーカイブですが，現状デジタルで公開するというのは，まだ現実的ではないなというのが素直な気持ちです。やはり全点をすべて写真，あるいはスキャニングなり，それなりの方法で画像にしてアップしていくというのは，現状ではまだ遠い道のりかなと思っております。ただ，目録を出した暁には，当然その目録に写真がある程度は入ってくるでしょうし，それをインターネットにある程度出していくことになろうかと思います。しかし，情報をどこまで出すかというのは，私の判断だけではできないというところがございまして，収蔵元の芸術文化センターの判断になりますので，まだ何とも言えないということになります。ただ，皆様からぜひ何かお問い合わせいただく時に，「もうちょっとどこかで見たい」とか一言いただけると，声が届きやすいかと思います。

また，今後全体を見たいというお声があった場合の方法ですが，私もとてもよくわかるし，皆さんに見ていただきたいなという気持ちは本当にあるんです。本当は，見たいとおっしゃる方一人ひとりに，その方の興味のあるものをお出して見ていただくというのがベストだと思っております。ただ，物理的にもどうしてもそこまではできないというのは先ほど申し上げた通りですので，逆に何人かまとまっていただく，あるいは学会等のグループで閲覧ということであれば，こちらとしても動きやすいこともあるかもしれません。ご相談いただければと思います。

せっかくのバレエのコレクションですのに，なかなかいままで舞踊学会の方々に知っていただく機会がありませんでしたので，今日，この日を機会に知っていただいて，ぜひ口コミで宣伝をしていただいて，また兵庫県立芸術文化センターはバレエ公演なども行なっている劇場ですので，お運びください。常設展示というのは，いわゆる覗きケースと言われるものの中身を毎回替えているものですから，４点から６点，マックスで10点弱というような小規模なものでございますけれども，ぜひそちらを見ていただいて，そこにリーフレットが置いてありますので，お持ち帰りください。

以上で，大変短こうございますけれども，コレクションの紹介とさせていただきます。ありがとうございました。（拍手）

貫　芳賀先生，ありがとうございました。大変コンパクトに要領よく話していただきましたものですから，３分ほどまだ時間が余っております。お話の方々には質疑はなしということで最初申しておったのですけれども，せっかく時間が余りましたので，いろいろお訊きしたいことがあろうかと思いますので，ご質問のある方はいまの機会にしていただければと思いますけれども，いかがでしょうか。

芳賀　ないとさみしいので，ぜひ何か。

質問　こんにちは。リーフレットにもしかしたら書いてあるかもしれないのですけれども，コレクションというのがまずあって，それからコレクションを部屋の湿度とかそういうのを決めたりとか，そういうふうにつくっていったと思うのですけれども，いまは劇場に納めてもらうという形になっているんだと思うのですが，いちばん最初に動き出す時にどのような動きをしていまに至ったのかという，そこら辺を教えていただけませんか。

芳賀　最初にこのコレクションについて私が知ったのは98年のことでした。1998年にセゾン美術館でバレエ・リュス展という大変大きな展覧会がございまして，その時に私はお手伝いという形で入っていたのですが，その展覧会に作品を薄井さんから出品していただくことになりました。その際に学芸員さんに，あまりにも専門的過ぎてわからないので，ついて行って選んでくれと言われまして，ついて行ってコレクションを拝見したのが最初です。

その時は，薄井さんのご自宅に管理をされている状態でした。薄井さんの記憶だけで，「あそこの３番目のファイルに入っていた気がする。ちょっと開けてみて」というような感じで，次々と見ては出して，「じゃ，これは出しましょう」というような，そういう感じだったんですね。それを拝見していて，「これは何か整理をされたらよろしいんじゃないですか」と申し上げたのは，私がパリオペラ座図書館，あるいはヴィクトリア＆アルバートまでわざわざ見に行って見つからなかったソワレ・ド・パリのプログラムがそこにあって，私の３年間は何だったんだとか，そのようにびっくりするような資料がたくさんあったということもあります。

そういうふうに申し上げたところ，99年に「本当にやっていただけますか？」というお問い合わせがありまして，「喜んで」ということでまいりまして，大体それから５～６年かかりましたか・・，１カ月に大体１週間から10日ほど，コレクションがあった関西に滞在して，10年前に届いたまだ開いていない箱を開けるところから始めました。まず分類するために，袋に入れて番号をつけて，あと状態があまりよくないものに関してはそれを特記事項で――その時はまだ勉強不足でして，どのように保存をしたらいいとか，そういうことがわからなかったので，とにかくグラシン紙でカバーをつける程度しかできなかったのですが，どうにか整理をし始めました。

そして，兵庫県立芸術文化センターが５年前に設立された時に，そこにコレクションが入るということが，これも紆余曲折はあったのですが，薄井さんの功績ということで決まりました。ただ，劇場にコレクションが入るということは前例がなかったものですから，なかなか大変なことでございました。現在でもそういう意味では，非常にイレギュラーだからできること，イレギュラーだからちょっとやりづらいことの両方がございまして，イレギュラーだからできることのほうをぜひこれから進めたいなと思っておりますので，逆に皆様からのアイデアなどありましたらお聞かせ願いたいと思います。

質問　私も最近オペラ座を調べてみて，やはりパンフレットをちょっと見に行きたいなと思いました。

芳賀　では，あとで個別にご連絡ください。ありがとうございます。

貫　それでは時間になりましたので，芳賀先生，どうもありがとうございました。もう１度拍手を。（拍手）